

中国教育部国家教育发展研究中心チューニング調査団との研究交流
平成29年9月25日(月) 10:00～15:30
国立教育政策研究所

資料4-1

日本のチューニング情報拠点の概要 - 役割・体制・活動・インパクト -



深堀聰子（国立教育政策研究所）

fukahori@nier.go.jp

1. 学位プログラム化に向けて

1.1 政策路線としての「学位プログラム化」

1.2 学修成果重視の高等教育政策の背景

1.1 政策路線としての「学位プログラム化」

- 中央教育審議会『我が国の高等教育の将来像（答申）』（平成17年1月28日）
 - 「国際的通用性のある大学教育又は大学院教育の課程の修了に係る知識・能力の証明としての学位の本質を踏まえつつ、今後は、教育の充実の観点から、学部や大学院といった組織に着目した整理を、学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程中心の考え方に再整理する必要がある。」
- 中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて（答申）』（平成20年12月24日）
 - 学士課程教育における学位授与、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針の明確化
 - 学校教育法施行規則の一部改正（平成28年3月31日）
 - 「三つのポリシーを一貫性のあるものとして策定し、公表する」ことを義務化
 - 中央教育審議会大学分科会大学教育部会『「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン』（平成28年3月31日）
 - 策定単位「学位プログラム」（授与される学位の専攻分野ごとの入学から卒業までの教育課程）

1.2 学修成果重視の高等教育政策の背景

- 質保証とはステークホルダーの「信頼」を確立すること -

- 質保証：高等教育機関が、大学設置基準等の法令に明記された最低基準としての要件や認証評価等で設定される評価基準に対する適合性の確保に加え、自らが意図する成果の達成や関係者のニーズの充足といったさまざまな質を確保することにより、**高等教育の利害関係者の信頼を確立すること**。
 - 大学改革支援・学位授与機構『高等教育に関する質保証関係用語集（第4版）』
- 大学のステークホルダーとは誰か
 - 学生・大学教員（学術性）
 - 学生・学生の進路先の雇用主（エンプロイアビリティ）
 - 学生・一般市民（市民性・リーダーシップ）
 - グローバル社会（国際通用性）
- どのような質を確保すれば「信頼」を獲得することができるのか。
 - **大学が学生に何を教えたかではなく、学生が大学でどのような知識・能力を身に付けたか（学修成果）**。
 - **社会の基幹的人材とみなすに相応しいか（共通性）**
 - **社会の多様な課題に対応できる多様な人材が輩出されているか（多様性）**
- 学術（学問分野）は社会とのつながり（エンプロイアビリティ・市民性・リーダーシップ・国際通用性）を加味して再定義される必要がある。

各学問分野の教育を通して学生に身に付けさせたい学修成果の枠組みを構築し、各大学において学位プログラムを設計・実践・改善するための方法論。

2. 欧州チューニングの考え方

- 2.1 学位プロフィールによる大学教育の共通性と多様性の両立
- 2.2 学位プロフィールを実現するための学位プログラム
- 2.3 学位プログラムの「学修成果」と授業科目の「学習成果」
- 2.4 チューニング教育改善サイクル
- 2.5 OECD-AHELOフィージビリティ・スタディの取組
- 2.6 Tuning-CALOHEEの展開

2.1 学位プロフィールによる大学教育の 共通性と多様性の両立

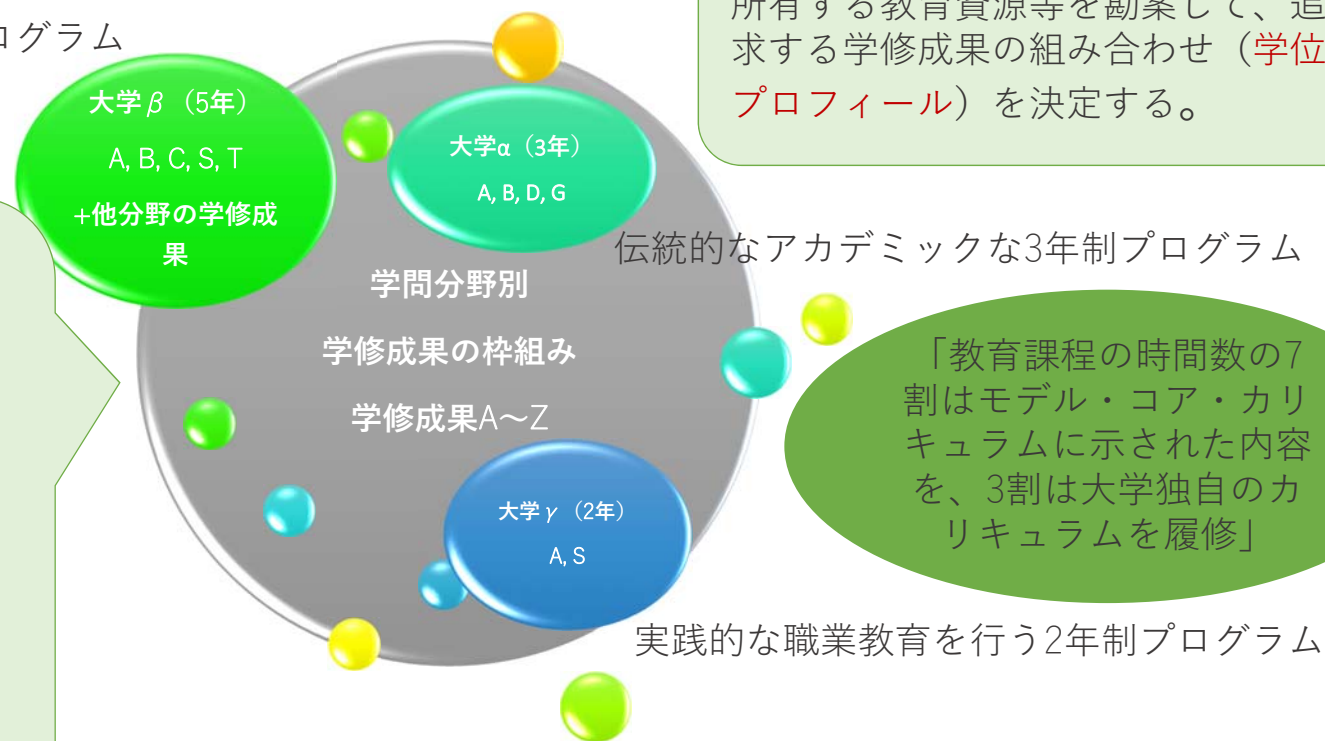
学際領域5年制プログラム

チューニングにおける学修成果は、学位プログラムを履修した総合的な成果として、学生が獲得することが期待されている知識・能力が有機的に結合したものの。

ステークホルダーとの協議に基づいて定義される。

多様な大学間や教員間で共有するためには、ある程度の抽象性が求められる。

9/25/2017

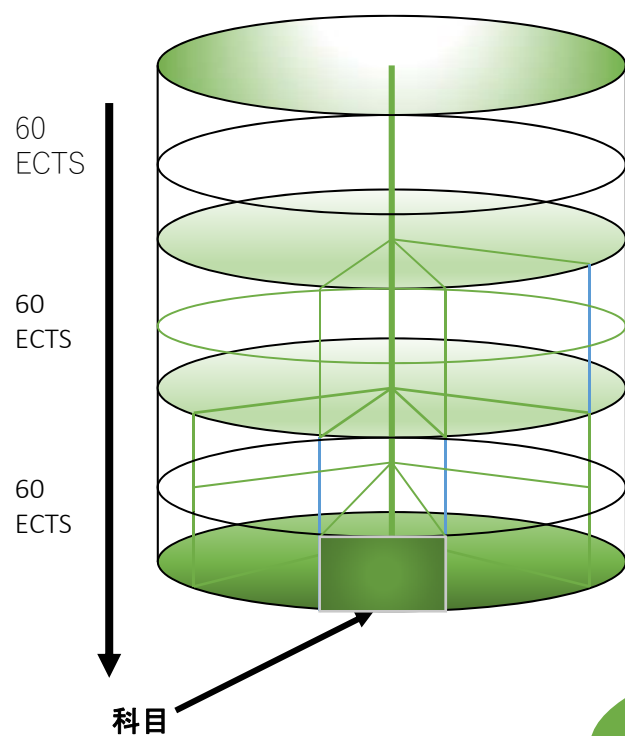


各大学は、在籍する学生の進路先や、所有する教育資源等を勘案して、追求する学修成果の組み合わせ（学位プロフィール）を決定する。

深堀聡子「『学問分野別』学修成果アセスメントの意義と展望」
『文部科学教育通信』No.402, pp.12-15.

2.2 学位プロフィールを実現するための学位プログラム

学位プロフィールで宣言した学修成果（例：大学 α ：A, B, D, G）を獲得させるために適切な科目を配置して、単位を割り当てる。



【設計原理】

- 各教員が何を教えられるか（教員中心）ではなく、学生にどのような学修成果を獲得させたいか（学習者中心）。
- そのためにどのような科目を配置すればよいか。
- ゴンサレス, J.・ワーヘナール, R. (深堀聰子・竹中亨共訳) 『欧州教育制度のチューニング・ポローニャ・プロセスへの大学の貢献』明石書店、2012年
- 深堀聰子編『アウトカムに基づく大学教育の質保証 - チューニングとアセスメントにみる世界の動向』東信堂、2015年

大学教員が学位プログラムにおける相互補完的な役割を理解し、密に連携をとる必要がある

2.3 学位プログラムの「学修成果」と授業科目の「学習成果」

学位プログラムを履修した総合的な成果として、学生が獲得することが期待されている知識・能力が有機的に結合したもの。抽象的に記述されており、直接測定することは想定されていない。ただし、新たな動き（CALOHEE, 後述）

学生が科目を履修した結果として習得することが期待されている具体的な知識や能力。単位認定の根拠として、所定の学習期間内に達成可能であり、測定可能でなければならない。「学修成果」は実際には複数の科目を横断して獲得されているが、「質保証」の観点から、いくつかの科目の中で「学習成果」として具体化され、測定されなければならない。科目の成績評価は、学位プログラムの評価の基盤。客観性を確保することの重要性。

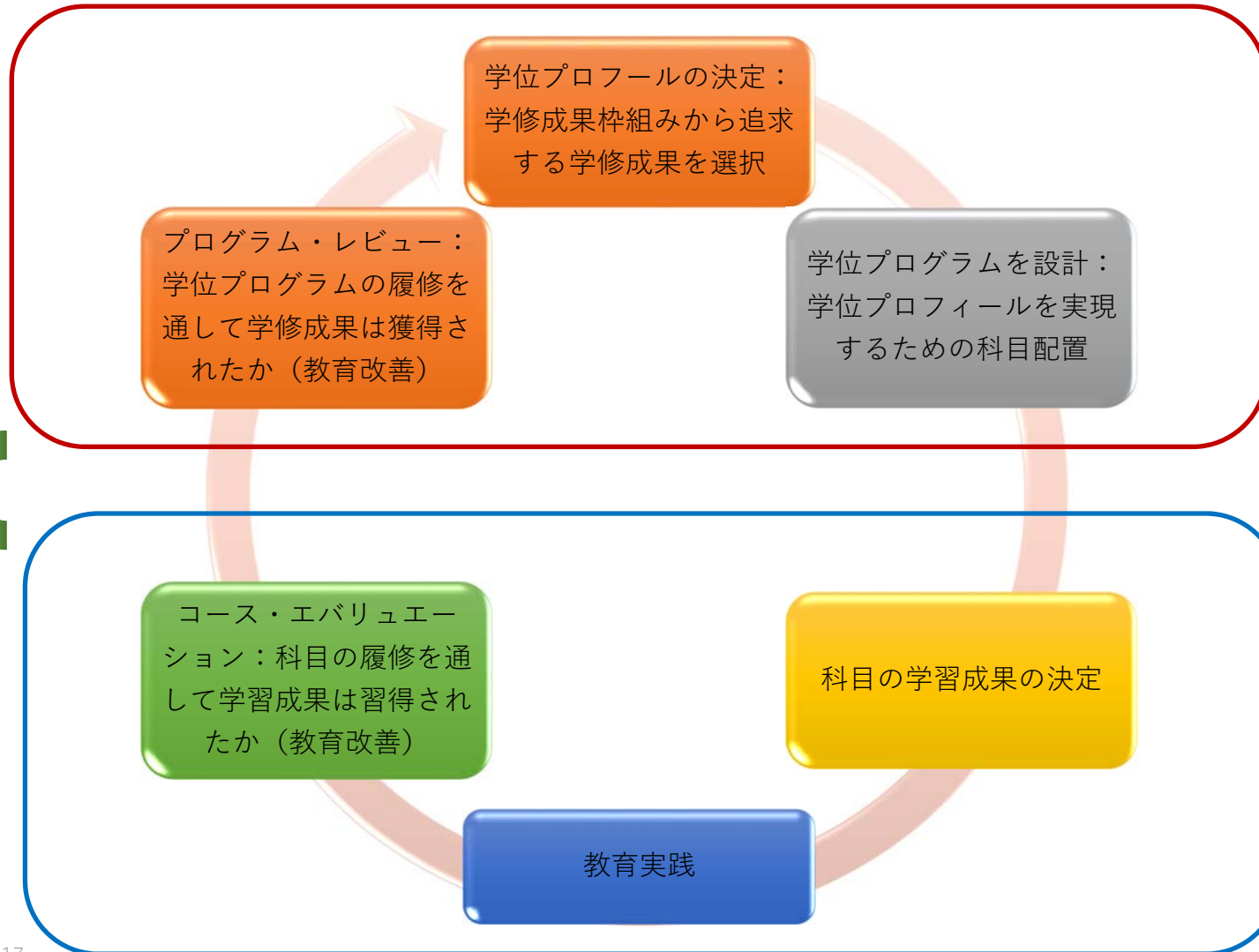
緩やかな結合
エキスパート・ジャッジメント

学修成果	B			D			G					
学習成果	a1	a2	b1	b2	b3	d1	d2	d3	g1	g2	g3	g4
科目1 (4ECTS)	○		○			○		○	○			
科目2 (2ECTS)		○		○	○							
科目3 (2ECTS)												
.....												

大学教員は、抽象的な「学修成果」についての共通理解を具体的なレベルで形成し、担当する科目の「学習成果」として、学生に習得させなければならない。

2.4 チューニング教育改善サイクル

緩やかな結合…エキスパート・ジャッジメント



学位プログラム・レベル

授業科目・レベル

2.5 OECD-AHELO フィージビリティ・スタディの取組



- 高等教育の学修成果を世界共通のテストに基づいて測定することが可能かどうかを検証するための調査。
- 土木工学、経済学、一般的技能の3分野で実施（2008-2012）（日本は土木工学の取組に参加）。
 - 結論：学問分野の学修成果アセスメントは経験を蓄積していけば可能に。
 - OECD, *AHELO Feasibility Study Report Vol.1*, 2012. (<http://www.oecd.org/edu/skills-beyond-school/AHELOFSReportVolume1.pdf>)

2.5 OECD-AHELO フィージビリティ・スタディの取組-導かれた示唆



国研テスト問題バンクの取組へ発展

・取組から導かれた示唆（日本）

・ 抽象的な学修成果は、具体的な学習成果に紐づけて論じてみなければ、真の共通理解が図れているのか判断することができない。

・ テスト問題作り（採点・修正）は、抽象的な学修成果を具体的な学習成果に落とし込み、その妥当性に関する対話を重ねることで、学修成果に関する共通理解を形成するための有益な演習。

・ エキスパート・ジャッジメントを鍛える取組

・ 特定の文脈において形成された専門家の共通理解は、異なる文脈にも応用可能（転移）。

・ アンカー事例としての「典型的問題」

・ 分野全体を覆い尽くして標準化するようなテストは必要ない。

2.6 Tuning-CALOHEEの展開 エキスパート・ジャッジメントを鍛える

- **CALOHEE**(Measuring and Comparing Achievement of Learning Outcomes in Higher Education in Europe, EU Erasmus Plus)(2016-) (資料4-2)
 - ◎ 事務局：国際チューニング・アカデミー
 - ◎ 分野：歴史学、教育学、物理学、土木工学、看護学
 - ◎ コンソーシアム：75大学（5分野×15大学）, ESU, ERASHE, ECA
 - ◎ 運営委員会：EUA, ENQA, ENAEE等
 - ◎ 技術支援：ETS
- 第1フェイズ：アセスメント枠組みの開発
- 第2フェイズ（2018年～）（予定）：テストの開発と実施

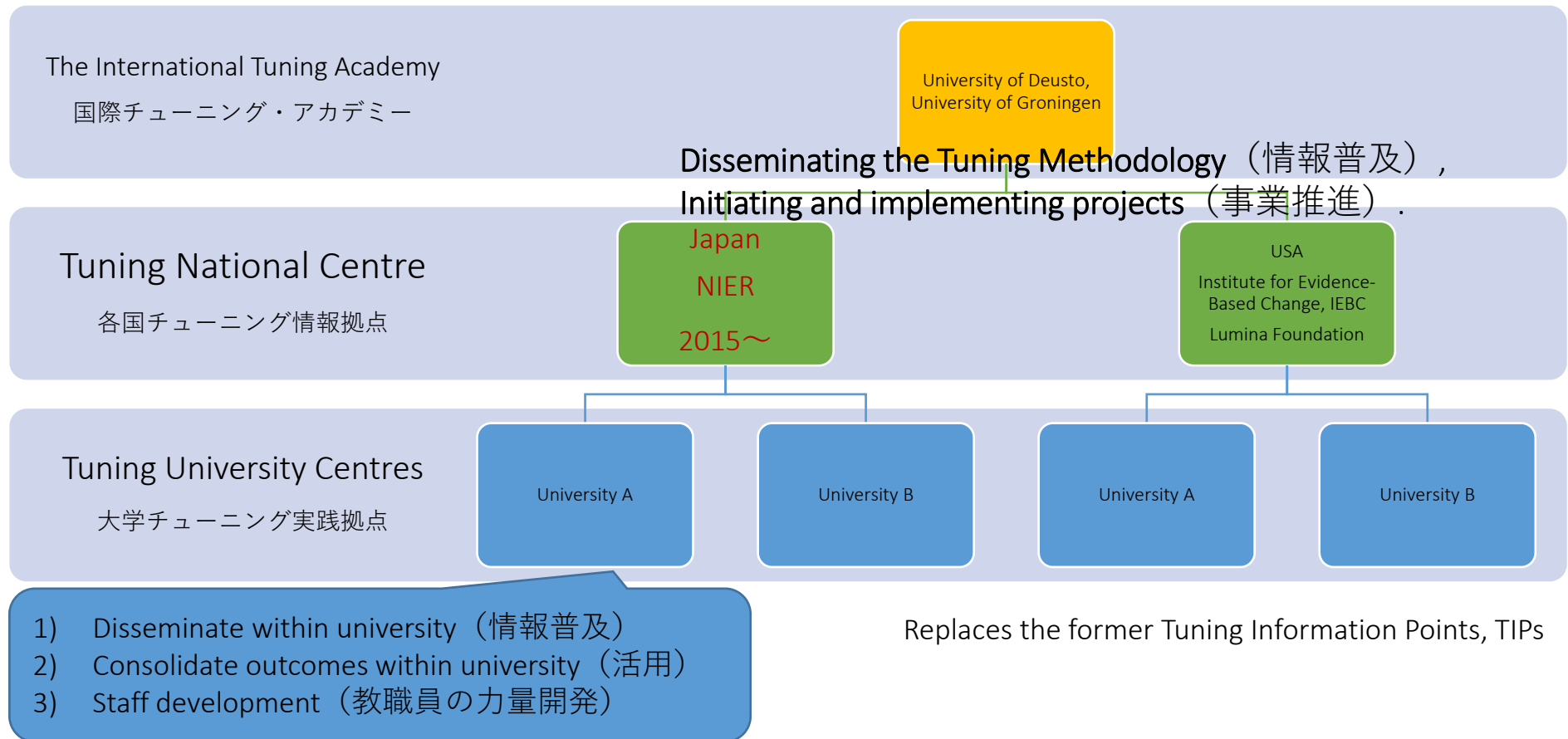
3. 国立教育政策研究所におけるチューニングの取組

- 3.1 世界のチューニング拠点組織について
- 3.2 日本のチューニング情報拠点の役割
- 3.3 日本のチューニング情報拠点の体制
- 3.4 日本のチューニング情報拠点の活動・インパクト

3.1 世界のチューニング拠点組織について

Foundation of Tuning Centres world-wide (資料4-3, 資料4-4)

<http://www.nier.go.jp/tuning/pdf/tuning-ww.pdf>



3.2 日本のチューニング情報拠点の役割

<http://www.nier.go.jp/tuning/base-02.html#01>

- チューニングの理念や具体的な方法、グッド・プラクティス、明らかになった課題等に関する情報を体系的に提供していくことを通して、日本の大学の取組を支援し、学習者を中心とした教育環境の整備に貢献していくことを目指します。
- チューニングを共通の切り口とすることで、大学教育の質保証に向けたグローバルな対話に参加するためのプラットフォームを提供していきます。
- 日本の大学でも、チューニングの方法に基づいて学位プログラムを設計・実践することへの関心が徐々に高まっています。この関心が実践へと発展し、アウトカム重視の大学教育が日本に適した形で定着するように、国立教育政策研究所はチューニングに関する日本の情報拠点として、国際チューニング・アカデミー、各国のチューニング情報拠点、及び日本のチューニング実践拠点と連携協力しながら、活動を強化してまいります。

3.3 日本のチューニング情報拠点の体制

<http://www.nier.go.jp/tuning/base.html>

- 代表：深堀聰子（高等教育研究部長）
- 事務局：坂口章子（事務補佐員） tuning@nier.go.jp
- 運営委員会
 - 金子元久（筑波大学大学研究センター特任教授）
 - 川嶋太津夫（大阪大学未来戦略機構戦略企画室教授）
 - 佐藤万知（広島大学高等教育研究開発センター准教授）
 - 竹中 亨（大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授）
 - 中島英博（名古屋大学高等教育研究センター准教授）
 - 羽田貴史（東北大学高度教養教育・学生支援機構教授、総長特別補佐）
 - 松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
 - 森 利枝（大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授）

3.4 日本のチューニング情報拠点の活動・インパクト

国際研究協力事業による研究「チューニングによる大学教育のグローバル質保証」

- 機械工学分野テスト問題バンク（平成26（2014）年～）
 - 代表者：岸本喜久雄（東京工業大学教授）
 - 国際委員会委員長：Jeffrey Cross（東京工業大学教授）
 - ASEANとの連携, UK, Australia, USAとの対話
 - <http://www.nier.go.jp/tuning/centre/kikai.html>
- 哲学分野における学修成果枠組みに関する共通理解形成（平成28（2016）年～）
 - 代表者：田中一孝（桜美林大学講師）
 - <http://www.nier.go.jp/tuning/centre/tetsugaku.html>
- 歴史学分野における学修成果に基づく授業開発（平成28（2016）年～）
 - 代表者：竹中亨（大学改革支援・学位授与機構教授）
 - <http://www.nier.go.jp/tuning/centre/rekishi.html>
- 全国経営学部長会議におけるチューニングへの関心
 - 幹事：絹川直良（文京学院大学教授）
- 大学・学会等における講演（情報普及）

The Development of Common Understandings through Collaboration.

ご清聴ありがとうございました

fukahori@nier.go.jp

